

第6回宮代町総合計画審議会議事録

1 開催日時

令和元年12月19日（木）午後6時00分～午後7時30分

2 開催場所

進修館小ホール

3 出席者

（委員）

折原正英委員、吉澤久美子委員、並木誠委員、秋山高善委員、佐々木敦子委員、
佐々木誠会長、保科寧子委員、高津絵里委員、八木橋孝雄委員、難波悠委員、
鈴木和子委員、小林俊介委員

（欠席）

松山仁委員

（事務局）

栗原企画財政課長、伊東副課長、榎本主幹、小川主査、立見主任

（関係課職員）

石塚まちづくり建設課長、高橋主査

（コンサル）

牧野氏、菊地氏

4 次第

- 1 開会
- 2 アクションプランのまとめ・整理
- 3 将来都市像の整理
- 4 その他
- 5 閉会

5 議事（要旨）

（1）開会

（2）アクションプランのまとめ・整理

アクションプランのまとめ・整理について、事務局より資料1及び資料2に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見・提言があった。

佐々木会長　　これまでの会議では、なるべく具体的なところからということで、まずはアクションプランについて皆様からたくさんのご意見をいただいた。今後、総合計画の方針、構想、将来都市像をまとめていくことになるが、本日は「方針」について議論したい。

折原委員　　今回の資料は審議会から出た意見だけで構成されているのか。ワークショップで出た意見の扱いはどうなっているのか。

事務局　　ワークショップの結果を委員の皆様にも共有しているため、間接的にワークショップの意見も反映されていると思う。今後、町で事業を検討する際には、審議会が出たアイデアに加え、ワークショップで出たアイデアについても検討材料として活用していく。

八木橋委員　　「山崎山で森のようちえん活動」とあるが、「山崎山」の名称は外したほうがいいかもしれない。山崎山は20年前から完全ボランティアで環境を保全している場所であり、県によると、補助金をもらって営利活動的に利用するのは困るということのようだ。県、町、協会、事業者の4者で事前に調整が必要となる。

佐々木会長　　「山崎山の有効利用、有効活用」くらいの書き方がよいということだ。ふせんに書かれた「方針」の案についてご意見をいただけるとありがたい。それではまずは「顔が見える地域コミュニティをつくる」についていかがか。「顔が見える」というのは、単に知っているだけではなく、名前もわかるようなかなり距離の近い人間関係を意識しているようだが。

難波委員　　「顔が見える」という表現を見ると、何となく主体性を持った町民がいて、誰がやるのかが明らかになっているようなイメージを持つが、そうすると真ん中の主体についてのテーマ、人づくり、担い手づくり的な部分と重複感があるのではないか。

佐々木会長　　今後まとめていく際に整理する必要はあるかもしれないが、必ずしもこちらにあるものが別の場所に出てきてはいけないということでもないと思う。

八木橋委員　　資料1の「①世代間交流をどう進めるか」が「顔が見える地域コミュニティをつくる」になったのだとしたら、少し飛躍しすぎという感じもする。もう少し「世代間交流」の要素も加えてはどうか。

佐々木会長　　次に「町のありとあらゆる遊休スペースを官民間問わず活用」についてい

かがか。

小林委員 公園の活用として、ガーデニング、キャンプ等の利用について記載があるが、公園の利用に際して法的な規制等はないのか。

事務局 確かに規制はあるが、最近では Park-PFI など公園の中に建物を建てたり、特区的な考え方もありえなくはない。まずは柔軟な発想で考えてみたい。

佐々木会長 近年、公共空間を民間活用し、受益者負担でお金を払ってもらって管理費に回していくような動きもみられる。公共と民間がうまく特性を活かしていくということである。

次に「顔が見える地元経済をつくる」についていかがか。

八木橋委員 店や事業をやっている人の顔が見えるということか。

事務局 町の特性として、ファミレスなどチェーン店が少なく、個人店が多いので働いている人の顔がよく見えるということが言えると思う。審議会の中でも、行ってみるとおいしいのに意外と知られていない店も結構あるというような話も出ていたため、町の外に出ていくのではなく、顔が見える関係性の中で経済が循環していくことをイメージし、一つこのような方針を立てた。

佐々木会長 次に「東武動物公園駅西口ゾーンを更によくする」についていかがか。3つしかないのももう少しキーワードを足してもよいと思うが。これは西口だけで東口は入れなくてもよいのか。

折原委員 「駅周辺ゾーン」としてはどうか。

佐々木会長 「西口・東口」と両方書いてもいいのではないか。

八木橋委員 古利根川の杉戸側の土手はさらに整備を進めているようだ。灯籠流しの関係もあるようだが。

高津委員 宮代町も連携して何かできればよい。駅をまたいだ連携も考えられないか。とにかくもう少し駅から東武動物公園までの間が活性化すれば、滞在時間も伸びるのではないか。個人的には住宅購入の際に、杉戸町だと駅周辺に宅地があまりなく、宮代町の方が広い土地を見つけやすかった。

折原委員 この方針案をみると、全体的にソフト面の話が中心でハード面の話がほとんどない。西口整備については、ここで少し膨らませて記載していかないと総合計画としてはやや厳しいかもしれない。

八木橋委員 3つ目の「田舎」がイメージしにくい。「宮代という田舎」とはこういう田舎である、ということが伝わるキーワードを加える必要があるのではないか。

折原委員 田舎は観光と結びつける手もある。

八木橋委員 ハード的な整備を考えるなら宿泊施設が必要だと思う。

佐々木会長 次に「行政機能・生活機能のアクセシビリティを高める（中心から外へ／外から中心へ）」についていかがか。市民のワークショップでは、交通の問題は非常に多く意見が出ていたテーマである。

- 事務局 ここは高齢者の足など交通の話であるとともに、例えば北と南にある公民館を有人化し、地域を支える拠点にしていくという考え方、町が中心で待ってるのではなく、中心から外へ出ていくというイメージも想定している。今回の資料はキーワードをもとに整理しているため、ふせんの方針を補足する言葉が足りてない部分はある。次回までにはより素案に近い形で提示したい。
- 難波委員 町が実施している事業や活動の情報もまとまっていないという話が出ていたと思う。アクセス性ということであれば、ここに情報発信や情報提供の話が入ってきてもいいのではないか。
- 八木原委員 介護や福祉の関係で「生活機能訓練」という用語があるので紛らわしいかもしれない。
- 佐々木会長 次に「新しい村や山崎山など、「農」の資源の価値を高める」についていかがか。
- 八木橋委員 「東京に一番近い田舎」はわかりやすくいい。
- 佐々木会長 次に「町を知り、町を自慢する」についてはいかがか。
- 八木橋委員 「自慢」だけでいいのか。「発信」というニュアンスも加えてはどうか。
- 佐々木会長 「PR」とあるので「発信」の意味も一応含んではいるようだが。
次に「市街地の魅力を高める」についていかがか。
- 八木橋委員 西口の駅前通りはまだまだ暗い。シャッターが閉まっている店は子どもたちに絵を描いてもらったかどうか。
- 難波委員 公共施設の維持整備も含め、今後の行政のあり方、学校のあり方などが出てきていないのではないか。
- 佐々木会長 第4次では構想の中に「公共施設の機能と役割の再編」というものがあったが、そういうことか。
- 難波委員 これまで取り組んできていて、前回の計画には載っているのに今回は載っていないとなると、積み残されているものがあるのであれば、それはどうなったのかとならないか。
- 八木橋委員 「町と民間との役割分担」のところに加えられそうだが。
- 折原委員 全体的に民間任せで行政はいったい何をやるのか、あいまいで見えにくい印象がある。もう少し行政計画としてバージョンアップしていかないと厳しい部分はある。
- 佐々木会長 「町と民間との役割分担」のところに「町は…」というものを加えていく必要はあるかもしれない。また、第4次の積み残しがあるのだとすれば、それらを検証した結果に基づく方針があってもいいと思う。
- 秋山委員 将来的に町に住み続けてもらうために、子どもたちの教育、子どもたちをどう育てていくかは重要だと思う。例えば小学校の教育で宮代らしさを打ち出していくような方向性があってもいいのではないか。
- 高津委員 学校の特色として、はだし教育等は今後もあっていいと思うが、発達に不安を抱えている子どもを宮代で育てたいと引っ越してくる方もいるの

ではないか。高齢者や見守りの方が声がけなどしてくれるような関わりがあれば心強いと感じると思う。

八木橋委員 高齢者による登下校の見守りボランティアは行われている。放課後子供教室もモデル的に1か所実施されている。

難波委員 教育や子育ての面で、地元を誇りを持ってもらって住み続けてもらう視点と、見守りがあって安心して子育てできるという2つの視点が出たと思う。後者についてはある程度キーワードが出ていると思うが、前者の「誇り」の面は、「町を知り、町を自慢する」のところに含まれるのではないか。

佐々木会長 第4次の方針は19個、今回の資料では11個となっている。前回に合わせる必要はないと思うが、教育や子ども、障害者などのキーワードについても追加すべきものがあれば追加してもよいかもしれない。

難波委員 「農」と「地元経済」が繋がっている感じがあまりないので、地産地消や地域内の循環など、もう少し連携させてもよいのではないか。

(3) 将来都市像の整理について

将来都市像の整理について、事務局より資料3に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見・提言があった。

佐々木会長 前回から10年が経過し、時代の変化を感じられるような将来都市像にできればいいと思う。

八木橋委員 年齢、考え方など多様な人がいるわけだが、すべての人を満足させる町にしたいのか、町の施設など特別な資源を活かしていくのか、なんでも町だけで賄おうというのは難しいので、ある部分で割り切って考えていく必要はあると思う。

佐々木会長 どれだけとんがるかということだと思う。すべての人を満足させるような内容を目指せば、どの市町村の計画でも同じになってしまうだろう。網羅しきれない対象が出てくるとしても、それを排除するわけではないということで、ある程度取捨選択は必要である。

保科委員 「民・官が活躍するまち」というキーワードも出ているが、宮代町は住民参加型で、誰もが主役になろうと思えばなれる文化があるというところが町の独自性なのではないか。

八木橋委員 埼玉県東側の東武沿線で、これだけの自然が残っているのは山崎山しかない。宮代町として他の自治体に関わりなく活用できる場所でもある。宿泊機能についても検討して、もっと活用することができればと思う。

並木委員 宮代らしさを誇れる部分が前面に出していけるといいと思う。

鈴木委員 町は細長く、中心付近に進修館、役場などが集まっているため、和戸、姫宮はおいてきぼりになっている感じがする。画一化されたまちづくりではなく、市民が主体となりそれぞれで頑張っ住民に訴えるような地

域づくりが展開できればと思う。行政にはそういった取り組みの後押しをお願いしたい。

佐々木会長 幸福度にはお金や学歴などの既存の価値観とは違う尺度があるという話もあったが。

秋山委員 人と人の関わり方に下町っぽさ、人情があるということ。都会ではなくなった隣近所で子どもを育てるような近所づきあい、顔が見える関係とはそういうことだろう。

佐々木会長 直接「幸福」とは表現せずとも、別の角度で何かしら表現できれば。

小林委員 「世代がつながるまち」というような視点もあっていいのではないか。

(4) その他

事務局より、今後の会議日程について調整のお願いがあった。

(5) 閉会

以上